

ICRP「Publications 109」および「Publications 111」の改訂草案 に関するパブリックコメントの内容分析

Contents analysis of public comments on the draft revision of
ICRP "Publications 109" and "Publications 111"

*糸永 眞吾¹, 上田昌文¹

¹ 市民科学研究室 低線量被ばく研究会

昨年、ICRPは「大規模な原子力事故における人と環境の放射線防護」の草案に対するパブリックコメントをかけました。300件以上のコメントが寄せられ、そのほとんどが日本からのものでした。この報告では、どのような立場にいた人々がどのような意見を提出したのかについて分析する。

キーワード: パブリックコメント, ICRP, 原子力事故, 放射線防護, Publications 109, Publications 111, 被ばく線量, 参考レベル, 現存被ばく, 福島

1. 緒言

パブリックコメントは当初昨年の9月20日締め切りで進められたが、市民団体の要請により提出期限が10月25日まで延期された。またコメントは日本語での受け付けも可能となった。草案の本文は英語であったが8つの市民団体の有志により仮和訳が実施され、HP上で公開され、意見の提出が行われた。

2. パブリックコメントの概要

2-1. コメント作成者の属性と国

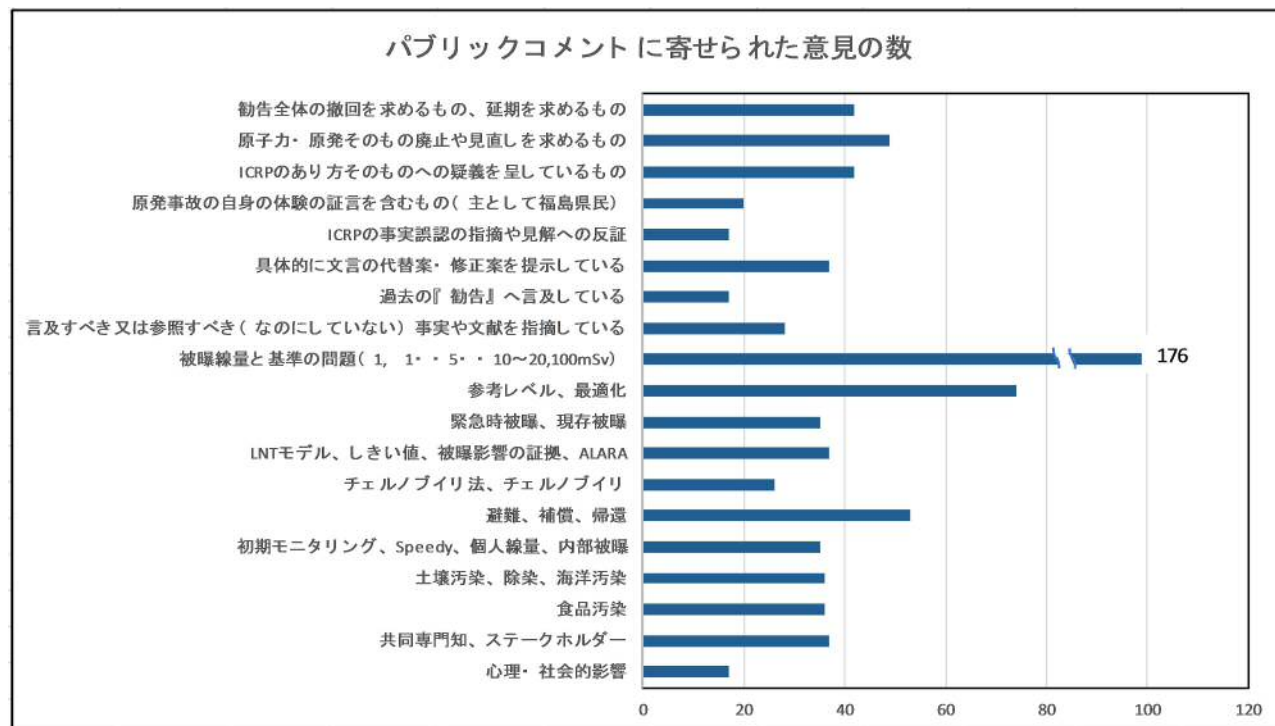
コメント提出者の属性(本人申告)は、個人が54%と半数以上を占め、市民団体25%、政府機関7.5%、大学6.2%、事故被害者3.9%、民間機関2.5%である。国別では日本が83%と大半を占め、以下件数で米国7、英国3、独、仏、カナダ、オーストラリア、スウェーデンが2、スペイン、ケニア1で不明28(主に米国?)である。

2-2. 意見の内容

パブリックコメントに寄せられた意見を分類し、下に示す。意見の内容は被曝線量に関するものが176件と圧倒的に多く、その中でも被曝線量限度を1mSvとするべきとの意見が多くを占めた。また改定草案以前の問題提議として“勧告の撤回”、“原発の廃止”、“ICRPのあり方への疑義”についても相当数の意見があった。

3. まとめと今後の対応

パブリックコメントの集計・解析については不十分な点があり今後も内容の精査を進め福島事故の教訓を明らかにして広く伝えることを進めていきたい。



参考文献

- [1] ICRP PUBLICATION 1XX, Radiological Protection of People and the Environment in the Event of a Large Nuclear Accident Update of ICRP Publications 109 and 111, Editor-in-Chief C.H.CLEMENT, Associate Editor H. FUJITA
<http://www.icrp.org/docs/TG93%20Draft%20Report%20for%20Public%20Consultation%202019-06-17.pdf>
- [2] "Radiological Protection of People and the Environment in the Event of a Large Nuclear Accident", Public comments
<http://www.icrp.org/consultation.asp?id=D57C344D-A250-49AE-957A-AA7EFB6BA164>
- [3] 上記[1]の日本語仮訳 https://www.shiminkagaku.org/icrp_japanesetranslation_20190906/

*Itonaga Shingo¹, Ueda Akifumi¹

¹Citizen Science Initiative Japan Low Dose Exposure Study Group